



太田 謙司 先生

略歴

- 1975年 3月 大阪歯科大学卒業
- 1978年 10月 東大阪市にて太田歯科医院開業
- 1983年 4月 大阪府歯科医師会理事就任
- 1993年 4月 大阪府歯科医師会常務理事就任
- 1995年 4月 大阪府歯科医師会専務理事就任
- 2006年 4月 日本歯科医師会常務理事就任
- 2008年 4月 日本糖尿病協会理事就任 現在に至る
- 2009年 4月 大阪府歯科医師会副会長就任
- 2011年 4月 大阪府歯科医師会会長就任 現在に至る
- 2015年 11月 日本体育協会（現日本スポーツ協会）公認スポーツデンティスト協議会会長就任 現在に至る

糖尿病と歯周病

一般社団法人 大阪府歯科医師会
太田 謙司

本日、私からは糖尿病から見た歯周病を主とする口腔ケアとの関わりをお話致します。

さて、私も30年以上、インシュリン注射をしている糖尿病患者です。そして日本糖尿病協会に只一人の歯科医師として理事を務めています。年に3~4回開催される理事会では、出来る限り歯科の立場で発信させて頂いています。糖尿病患者さんが持つ連携手帳に歯・口腔のページが入ったこと、糖尿病の合併症の六番目に歯周病が入ったことは、たくさんの歯科関係者の努力の賜物です。本日居らっしゃる先生方には釈迦に説法ですが、糖尿病のお話をさせて頂きます。

人類がまだまだ飢餓の時代には、血糖値を上げる必要はあっても下げる必要など無いわけでした。従って飽食の時代になった現在でも上げるホルモンは複数あるのに、下げるホルモンはインスリン一つしかありません。高血糖状況が長く続くと血管が傷ついて色々な合併症が出ます。これが糖尿病と呼ばれ、生活習慣病と言われています。糖尿病の予防や改善に我々歯科医師が取り組めることが少なからずあります。愛媛県では西田 互先生や愛媛大学と県歯科医師会の連携が強く、血糖値の測定まで可能となっていると聞きます。生活習慣の中の大きな要因である食事には、我々が大きく関わらなくてはなりません。運動療法は一見歯科と関係ないように思われますが、実は安全に運動をするためにスポーツ歯科がかなり関われると思います。

食事の内容については、栄養学をもとに栄養士の方の力も必要ですが、しっかり咬む、ゆっくり咬むことは歯科の責任です。夕食を取ってその後口腔ケアをした後には、何も摂取しない。これは歯周病の予防と同時に糖尿病の予防に大きな力を発揮致します。平成19年に発足した糖尿病協会の登録歯科医制度がありますが、登録歯科医師が減少の一途です。この学会の先生方には何とぞ登録頂ければ今後の糖尿病と歯周病との関連の普及に一段と弾みがつくものと考えます。



吉野 敏明 先生

略歴

- 1993年 岡山大学卒業，東京医科歯科大学歯学部歯科保存学第二講座
- 1999年 日本歯周病学会 歯周病認定医（現専門医）
- 2002年 AAP（アメリカ歯周病学会）International Member
- 2006年 吉野歯科診療所 歯周病インプラントセンター開設
- 2008年 日本歯周病学会指導医，日本レーザー歯学会 優秀研究発表賞 受賞
- 2009年 日本歯周病学会研修施設登録
- 2010年 歯学博士取得（東京医科歯科大学）
- 2011年 Osseointegration Japan 最優秀発表賞受賞，日本歯周病学会評議員
- 2013年 11th International Symposium on Periodontics & Restorative Dentistry
Poster session 2nd Award 受賞
- 2014年 吉野歯科診療所に内科部門を併設し，「誠敬会クリニック内科・歯科」に改称。
医療法人十字会 松見病院（病床250床 精神科病院）理事長就任
- 2015年 訪問看護ステーション「やさかのいぶき」開業
医療法人十字会を医療法人弥栄病院に名称変更，松見病院に歯科部門を開設し，医科歯科連携の包括的治療を開始し，「やさか記念病院」に改称。
- 2017年 自由診療による医科歯科包括医療を行う，誠敬会クリニック銀座開業。
医療法人桃花会一宮温泉病院（病床123床，一般病院）理事長 就任。

歯周治療を中心とした全身疾患管理は、 クリニックでも病院でも経営的に成功する

広域医療法人会長
吉野 敏明

歯周病は様々な全身疾患・健康の原因やリスクファクターとなる。とくに，糖尿病や循環器系疾患などはその傾向が顕著であり，莫大な量のエビデンスも存在する。しかしながら日本の保険医療制度は医科と歯科が分離しており，医学部と歯学部が併設されている大学ですら，会計窓口も別であり，同時に医師と歯科医師が診察を行う環境は殆どない。

本来であれば，歯周病専門医と内科医，循環器専門医，糖尿病専門医などが同時にチーム医療として患者を診察し，各々の専門の立場から患者の生命の危機の回避およびQOLの向上に努めるべきである。このことが歯科医療界の地位向上にも寄与し，もっと健全な診療所経営，病院経営につながるはずである。加えて，精神と関連の深いストレス時のブラキシズムなど，歯周病に関連する習癖などのコントロールも，心療内科や精神科と連携できるはずである。

わたしは，これらの理念を強く持ち，紆余曲折を経ながらも自由診療を中心とすることによって，歯科と医科が連携のレベルではなく，医師と歯科医師が同時診療をし，エビデンスに基づく歯周治療を行ないながら，地域医療の貢献はもとより，診療所・病院経営の改善を実現した。歯科医療界の地位向上と収益の増大およびキャッシュフローの改善を数値化して示すことも実現できた。少しでも，診療所経営・病院経営をされている方々の参考になれば幸いである。



大野 友三 先生

略歴

- 1979年 愛知学院大学歯学部卒業
- 1979年 愛知学院大学大学院歯学研究科入学（歯周病学講座）
- 1983年 愛知学院大学大学院歯学研究科修了（歯周病学講座）
愛知学院大学歯学部歯学博士取得（愛知学院大学 歯甲第93号）
- 1993年 医療法人光風会設立 理事長就任
- 2013年 愛知学院大学歯学部臨床教授就任
歯学教育認証評価組織メンバー就任
- 2017年 アジアデンタルフォーラム理事就任
アジアデンタルフォーラムADFプロフェッサー就任

資格

日本歯周病学会 理事・評議員・指導医・専門医

明日を見つめるマネジメント体制 ～歯科医療の未来をつくるグループ化の提言～

医療法人グループ光風会／愛知学院大学歯学部
大野 友三

テレビの健康番組で糖尿病，アルツハイマー病，心臓病が取り上げられるといつも必ず歯周病治療の関わりと治療の重要性が確認される昨今，歯科治療はこのシンポジウムⅢの歯周病治療を基盤としてしか成り立たなくなっていると思われまます。

しかし，治療の本筋は確立しましたが，歯科界を取り巻く環境がアゲインストに感じられるのは，私だけでしょうか？

今回のこのシンポジウムⅢにおいて，歯科治療への直接的なマネジメントにとどまらず患者福祉に対するドクターへのマネジメントや歯科衛生士及び他のコアスタッフへのマネジメントについて光風会グループが実際に行っている，医院毎で話し合い，情報を公開し分かち合い，ルールを決めていくという，グループ化について述べさせていただきます。

会員である開業医の皆さんは経営者であるので，私が提唱するグループ化には抵抗があると思われまますが，20以上の医院を経営している私どもの最大の悩みは，多くの院長が経営者ではなく運営管理者であることであります。もし，経営者同士が10名以上集まって，今回私どもが提唱しているグループ化が行われれば，各々の患者に対するマネジメントや経営基盤が劇的に安定するものと思われまます。

さらに各歯科大学の非常に厳しい大学経営においても，各医局がバラバラな運営を行っていると思われるので，まず医局同士の連携を密にすることにより，運営が効率的に行われ，その後，少しずつ各医局長または教授に経営者意識を思ってもらうことが大切です。

以上，書面では語りつくせないですが，実際に私どものグループが毎月行っている，衛生士，助手を中心としたマネージャーミーティングとその翌日に行われる各医院長を対象とした経営会議をご覧頂き，ご参考にしていただければと思ひまます。